

通信教育課程 シラバスの見方

目次

1. 通信教育課程・シラバスの見方(2019 年度入学生以降)
2. 通信教育課程・シラバスの見方(2018 年度入学生まで)
3. 2023 年度開講科目一覧

1. 通信教育課程・シラバスの見方(2019 年度入学生以降)

①～⑩の説明は右紙面に記載

授業科目名	科目名	履修形態①	卒業・幼稚園教諭・保育士 必修or選択or選択必修					
授業科目英名	科目名(英文)							
担当教員	② 科目を担当する教員名							
履修年次	③ 開講期	—	授業形態	④	単位数	⑤	授業時間数(回数)	⑥
学習成果	⑦							
実務経験	⑧-1		⑧-2					
履修方法	⑨	科目CD	⑩					
受講要件	当該科目を受講する為の要件科目等が設定されている場合のみ記載有							
授業の概要	どのような知識、技能、態度を学ぶのか、授業の概要							
授業の目的	当該科目を学習する目的、なぜこの学習が必要なのか、履修することでどのように学ばかを理解した上で学習することが重要。							
授業の到達目標1	} 授業の目的に対応して、学習をすることで身につけることができる能力							
授業の到達目標4								
成績評価方法及び基準筆記試験	} 成績評価の基準や方法							
成績評価方法及び基準レポート								
成績評価方法及び基準備考								
	100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:D評価(不可) *原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者は、単位認定できない。							
授業計画	NO	担当教員	題目	内容				
	1			通信学習、スクーリング学習の15回(一部科目は8回もしくは30回)分の授業内容				
	2			*「通信・スクーリング科目」の場合、1～8(15)回は通信学習、16～23(30)回はスクーリング学習の授業内容を掲載				
	3							
				}				
	15							
教科書	授業で使用指定教科書←必ず用意してください。							
参考書	学習する際に、指定教科書以外に参考となる書籍を紹介							
学習上のアドバイス	担当教員からのアドバイス							
準備学習(予習)	授業時間外の学習方法及び準備学習(予習・復習)の具体的な内容や方法							
準備学習(復習)								
試験対策	科目修得試験(スクーリング試験含む)の受験にあたり、留意点やアドバイス							
レポート作成等の方法・留意点	レポート作成にあたっての留意点、もしくは評価のポイント等 【通信科目、通信・スクーリング科目のみ記載】							
授業時間数(準備学習)	準備学習を行うために必要な時間数							
課題フィードバック	フィードバックの有無	フィードバックを行う場合の具体的な内容						

①履修形態:卒業や免許・資格を取得するための必修・選択・選択必修の区別を記載

②担当形態:担当教員が授業を担当する形態

担当形態	説明
単独	1人の教員が全てを担当する。
複数	1回の授業を2人以上の教員が担当する。
オムニバス	各授業回の担当教員が異なる。
クラス分け	クラスを分けて授業を行う。

③履修年次:当該科目が開講となる学年(履修登録が可能となる学年)

履修年次	説明
1	1年次以上の学生が履修することができる。
2	2年次以上の学生が履修することができる。
3	3年次以上の学生が履修することができる。

④授業形態:講義、演習、実技、実習のいずれかを記載

⑤単位数:当該科目を修得することにより、取得できる単位数

⑥授業時間数(回数):当該科目の授業時間数(スクーリング授業回数)

⑦学習成果:当該科目を履修する上で獲得可能な学習成果(4種、下表参照)を表示

【学習成果】(こども教育学科通信教育課程)

1. 基礎力	①連学の精神を理解し、常に向上させるために努力する力を身に付けることができる。 ②総合的な知識・技術を身に付け、対象児・者の最善の利益を考慮した発想力を持つことができる。
2. 実践力	①子どもの発達課題を理解し、教育課程に基づき指導計画をたて保育の計画と評価を実施することができる。 ②子どもを取り巻く環境を理解し、臨機応変に保育を展開できる。
3. フィードバック能力	①教育・保育・福祉の場における様々な場面での即応力を身に付ける。 ②物事の事象や本質を捉え、内容的確に他者に伝えることができる。
4. 地域理解力	①子どもと保護者を取り巻く社会的環境を踏まえ、地域の福祉や保育を担う専門職としての責務を身に付ける。 ②地域の特徴(自然や文化)を活かした福祉サービスを提供することができる。 ③地域福祉の推進の中核を担う専門職として、子どもの健全育成と子育て支援について地域や家庭と協働する力を身に付ける。

⑧実務経験、担当教員の实務経験と当該授業との関連:

⑧-1:担当する授業科目の内容と関連する実務経験がある場合は、「有」と記載。

⑧-2:⑧-1で「有」の場合、どのような経験を持ち、授業を行うか、具体的に記載。

⑨履修方法:当該科目の履修方法

凡例 通 信 :通信科目(レポート2通または1通+科目修得試験)

スクーリング*:スクーリング科目(スクーリング受講+スクーリング試験)

通信・スクーリング :通信・スクーリング科目(レポート1通+スクーリング受講+スクーリング試験)

※2019年度入学生以降の以下科目は、実習と読み替えてください。

実習 :実習科目(学外実習+実習日誌等提出)

教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ、保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(施設)、保育実習Ⅱ(保育所)、保育実習Ⅲ(施設)

⑩科目CD:科目コード

科目修得試験やスクーリングの申込み時に使用。

同名科科目であっても入学年度により、科目コードが異なる場合があります。

2. 通信教育課程・シラバスの見方(2018 年度入学生まで)

①～⑩の説明は右紙面に記載

授業科目名	科目名	履修形態①	卒業・幼稚園教諭・保育士 必修or選択or選択必修						
授業科目英名	科目名(英文)								
担当教員	②	科目を担当する教員名							
履修年次	③	開講期	-	授業形態	④	単位数	⑤	授業時間数(回数)	⑥
学習成果	⑦								
実務経験	⑧-1		⑧-2						
履修方法	⑨	科目CD	⑩						
受講要件	当該科目を受講する為の要件科目等が設定されている場合のみ記載有								
授業の概要	どのような知識、技能、態度を学ぶのか、授業の概要								
授業の目的	当該科目を学習する目的。なぜこの学習が必要なのか、履修することでどのように学ばかを理解した上で学習することが重要。								
授業の到達目標1	}								
授業の到達目標4	}								
成績評価方法及び基準筆記試験									
成績評価方法及び基準レポート									
成績評価方法及び基準備考	100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:D評価(不可) *原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者は、単位認定できない。								
授業計画	NO	担当教員	題目	内容					
	1			通信学習、スクーリング学習の15回(一部科目は8回もしくは30回)分の授業内容					
	2			*「通信・スクーリング科目」の場合、1～8(15)回は通信学習、16～23(30)回はスクーリング学習の授業内容を掲載					
	3								
	15								
教科書	授業で使用する指定教科書←必ず用意してください。								
参考書	学習する際に、指定教科書以外に参考となる書籍を紹介								
学習上のアドバイス	担当教員からのアドバイス								
準備学習(予習)	授業時間外の学習方法及び準備学習(予習・復習)の具体的な内容や方法								
準備学習(復習)									
試験対策	科目修得試験(スクーリング試験含む)の受験にあたり、留意点やアドバイス								
レポート作成等の方法・留意点	レポート作成にあたっての留意点、もしくは評価のポイント等【通信科目、通信・スクーリング科目のみ記載】								
授業時間数(準備学習)	準備学習を行うために必要な時間数								
課題フィードバック	フィードバックの有無	フィードバックを行う場合の具体的な内容							

①履修形態:卒業や免許・資格を取得するための必修・選択・選択必修の区別を記載

②担当形態:担当教員が授業を担当する形態

担当形態	説明
単独	1人の教員が全てを担当する。
複数	1回の授業を2人以上の教員が担当する。
オムニバス	各授業回の担当教員が異なる。
クラス分け	クラスを分けて授業を行う。

③履修年次:当該科目が開講となる学年(履修登録が可能となる学年)

履修年次	説明
1	1年次以上の学生が履修することができる。
2	2年次以上の学生が履修することができる。
3	3年次以上の学生が履修することができる。

④授業形態:講義、演習、実技、実習のいずれかを記載

⑤単位数:当該科目を修得することにより、取得できる単位数

⑥授業時間数(回数):当該科目の授業時間数(スクーリング授業回数)

⑦学習成果:当該科目を履修する上で獲得可能な学習成果(4種、下表参照)を表示【学習成果】(こども教育学科通信教育課程)

1. 基礎力	①建学の精神を理解し、常に向上させるために努力する力を身に付けることができる。 ②総合的な知識・技術を身に付け、対象児・者の最善の利益を考慮した発想力を持つことができる。
2. 実践力	①子どもの発達課題を理解し、教育課程に基づき指導計画をたて保育の計画と評価を実践することができる。 ②子どもを取り巻く環境を理解し、臨機応変に保育を展開できる。
3. フィードバック能力	①教育・保育・福祉の場における様々な場面での即応力を身に付ける。 ②物事の事象や本質を捉え、内容的に他者に伝えることができる。
4. 地域理解力	①子どもと保護者を取り巻く社会的環境を踏まえ、地域の福祉や保育を担う専門職としての資質を身に付ける。 ②地域の特徴(自然や文化)を活かした福祉サービスを提供することができる。 ③地域福祉の推進の中核を担う専門職として、子どもの健全育成と子育て支援について地域や家庭と協働する力を身に付ける。

⑧実務経験、担当教員の実務経験と当該授業との関連:

⑧-1:担当する授業科目の内容と関連する実務経験がある場合は、「有」と記載。

⑧-2:⑧-1で「有」の場合、どのような経験を持ち、授業を行うか、具体的に記載。

⑨履修方法:当該科目の履修方法

凡例 通 信:通信科目(レポート2通または1通+科目修得試験)

スクーリング:スクーリング科目(スクーリング受講+スクーリング試験)

通信・スクーリング:通信・スクーリング科目(レポート1通+スクーリング受講+スクーリング試験)

⑩科目CD:科目コード

科目修得試験やスクーリングの申込み時に使用。

同名称科目であっても入学年度により、科目コードが異なる場合があります。

3. 2023年度開講科目一覧

<凡例> 履修方法:…T:通信科目、S:スクーリング科目、TS:通信・スクーリング科目、J:実習科目

学年	科目コード	科目名	履修方法
1	1010	生活とモラル	T
1	1020	文章表現法	T
1	1030	生活文化論	T
1	1040	日本国憲法	T
1	1050	情報基礎演習Ⅰ	S
1	1060	情報基礎演習Ⅱ	S
1	1070	英語	T
1	1080	英語コミュニケーション	S
1	2040	保育学Ⅰ	T
1	2041	保育原理	2016～2018年度入学生 T
1	4010	保育原理	2019年度入学生以降 T
1	2050	保育学Ⅱ	T
1	4080	保育者論	2019年度入学生以降 T
1	3010	教育原理	2018年度入学生まで T
1	4020	教育原理	2019年度入学生以降 T
1	2100	小児保健Ⅰ	T
1	2101	子どもの保健ⅠA	T
1	4120	子どもの保健	T
1	4130	子どもの食と栄養	S
1	2150	家族援助論	T
1	2151	家庭支援論	T
1	2161	保育内容の指導法(健康Ⅰ)	2016～2018年度入学生 TS
1	2171	保育内容の指導法(人間関係Ⅰ)	2016～2018年度入学生 TS
1	3030	幼児教育課程論	T
1	4140	教育課程・保育の計画と評価	T
1	4090	保育の心理学	T
1	4280	障害児保育	2019年度入学生以降 TS
1	4190	こどもと健康	T
1	4200	こどもと人間関係	T
1	4210	こどもと環境	T
1	4220	こどもと言葉	T
1	4230	こどもと表現	S
1	2320	学校保健Ⅰ	2018年度入学生まで T
1	4370	学校保健Ⅰ	2019年度入学生以降 T
1	2350	教育相談	T
1	4500	幼児理解・教育相談	T
1	2420	音楽概論	2018年度入学生まで T
1	4430	音楽概論	2019年度入学生以降 T
1	2070	教職論	T
1	3020	教育行政学	2018年度入学生まで T
1	4470	教育行政学	2019年度入学生以降 T
1	3041	教育の方法と技術	2018年度入学生まで T
1	4490	教育の方法と技術	2019年度入学生以降 T
1	2140	精神保健	T
1	4480	特別支援教育	TS
1	4510	こども演習	TS
1	3050	幼児生活論	T
1	3051	生活	2016～2018年度入学生 T
1	4440	生活	2019年度入学生以降 T
1	3055	国語	2016～2018年度入学生 T
1	4450	国語	2019年度入学生以降 T
2	1090	体育理論	T
2	1100	体育実技	S
2	2010	社会福祉概論	T
2	2011	社会福祉	2016～2018年度入学生 T
2	4040	社会福祉	2019年度入学生以降 T
2	2030	児童福祉論	T
2	2031	児童家庭福祉	T
2	4030	こども家庭福祉	T
2	2060	児童養護原理	T
2	2061	社会的養護	T
2	4060	社会的養護Ⅰ	T
2	2080	発達心理学	T
2	2092	教育心理学	S
2	4100	こども家庭支援の心理学	T

学年	科目コード	科目名	履修方法
2	4110	こどもの理解と援助	S
2	2110	小児保健Ⅱ	T
2	2111	子どもの保健ⅠB	T
2	2121	子どもの保健演習	S
2	4270	こどもの健康と安全	S
2	2221	乳児保育	S
2	4250	乳児保育Ⅰ	T
2	2250	音楽実技	S
2	4240	こどもと音楽	S
2	4160	保育内容指導法(健康・環境)	S
2	4170	保育内容指導法(人間関係・言葉)	S
2	4180	保育内容指導法(表現)	S
2	2330	学校保健Ⅱ	2018年度入学生まで T
2	4380	学校保健Ⅱ	2019年度入学生以降 T
2	2340	看護学	2018年度入学生まで T
2	4400	看護学	2019年度入学生以降 T
2	4410	児童と文化Ⅰ	T
2	2360	基礎栄養学	2018年度入学生まで T
2	4390	基礎栄養学	2019年度入学生以降 T
2	4460	キャリアデザイン	T
2	3070	教育実習指導	2018年度入学生まで S
2	4520	教育実習指導	2019年度入学生以降 S
2・3	3080	教育実習	S
2	4530	教育実習Ⅰ	J
2	2281	保育実習指導Ⅰ	2018年度入学生まで S
2	4300	保育実習指導Ⅰ	2019年度入学生以降 S
2	2290	保育実習ⅠA	S
2	4310	保育実習Ⅰ(保育所)	J
3	2023	保育相談支援	S
3	4050	こども家庭支援論	T
3	4290	子育て支援	TS
3	2051	保育者論	2016～2018年度入学生 T
3	2212	保育内容総論	2016～2018年度入学生 S
3	4150	保育内容総論	2019年度入学生以降 S
3	4260	乳児保育Ⅱ	S
3	2241	社会的養護内容	S
3	4070	社会的養護Ⅱ	S
3	2270	美術表現	S
3	2370	保育内容の指導法(健康Ⅱ)	T
3	2380	保育内容の指導法(人間関係Ⅱ)	T
3	2390	保育内容の指導法(環境Ⅱ)	T
3	2400	保育内容の指導法(言葉Ⅱ)	T
3	2410	保育内容の指導法(表現Ⅱ)	T
3	4420	児童と文化Ⅱ	T
3	4540	教育実習Ⅱ	J
3	3060	教職実践演習(幼稚園)	2015年度入学生まで TS
3	3061	教職実践演習(幼稚園)	2016～2018年度入学生 S
3	4550	教職実践演習(幼稚園)	2019年度入学生以降 S
3	2300	保育実習ⅠB	S
3	4320	保育実習Ⅰ(施設)	J
3	2500	保育実習指導Ⅱ・Ⅲ	2018年度入学生まで S
3	4330	保育実習指導Ⅱ・Ⅲ	2019年度入学生以降 S
3	2510	保育実習Ⅱ	S
3	4340	保育実習Ⅱ(保育所)	J
3	2520	保育実習Ⅲ	S
3	4350	保育実習Ⅲ(施設)	J
3	2311	保育実践演習	2016～2018年度入学生 S
3	4360	保育実践演習	2019年度入学生以降 TS
科目等	5011	保育者論(特例)	幼稚園教諭特例コース T
科目等	5020	教育行政学(特例)	幼稚園教諭特例コース T
科目等	5031	教育課程・保育の計画と評価(特例)	幼稚園教諭特例コース T
科目等	5040	保育内容の指導法(特例)	幼稚園教諭特例コース T
科目等	5050	教育の方法と技術(特例)	幼稚園教諭特例コース T
科目等	5060	幼児理解の理論と方法(特例)	幼稚園教諭特例コース T
特修生	6010	こども演習入門	特修生 TS